

宮下 咲

1993年
東京生まれ

略歴

2017年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
2017年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻版画研究室 入学

グループ展

2018年 「ビーナスを綴じる」(The Artcomplex Center of Tokyo)、東京
2018年 「Table talk vol.3」(代田橋 納戸 /Gallery DEN5)、東京
2016年 「ギャラリーへ行こう 2016 (入選作品展覧会)」(数寄和)、東京
2015年 「空中にて」(アーツ千代田3331)、東京
2014年 「望遠レンズとぼくとロマンチック展」(UPSTAIRS GALLERY)、東京

個展

2015年 「宮下咲 個展」(BAR ART)、東京

受賞歴

2018年 アートプラザ大賞
2017年 俵賞 受賞

miyashita.sk@gmail.com

特筆すべきでないこと知りながら、大仰に列挙すること
書くことと描くことの、横断と同一性

幼い頃、祖父から原稿用紙と自由帳を、遊び道具として貰うことがありました。私はどちらにも、絵と文章の両方をかいた覚えがあります。

歳を重ねるにつれ、学校で勉強するということが主軸となっていた生活の端々にも、この行為は残っていました。

らくがきと称するところであり、これは私にとって最も色濃い思想の功績となりました。

私は、とりとめのない極めて私的な記憶を描写することを芸術的表現としています。

用いるのは文脈を持たなくなった文章と、記号として役割を持ち始めた絵、

つまりは、画的な機能を持つ言葉と、言葉的な機能を持つ画です。

記憶というモチーフの持ち主である私の生活が、

言葉を駆使して、視力を最も強い知覚とするものであることに起因します。

それらをカラージュすることにより、視覚的な詩を構成するに至ります。